

学生協ニュース

No.33

東北大学学生生活協議会広報委員会

一部寮生の、大音量での演説等による業務妨害がありました

業務妨害行動に対し大学は嚴重注意を行いました

昨年12月14日(金)に続き、この1月15日(火)に一部の有朋寮生・日就寮生と思われる学生達が、片平事務局玄関前で「保障無き廃寮を許さない」「早期新寮建設」などと拡声器を用いた大音量での演説等をほぼ2時間半にわたって行い、阿部総長や三谷副総長に対する暴言、事務官に対する威嚇行為などを含めて周辺の研究施設の研究活動や、事務局の業務を妨げる迷惑行為を行いました。大学はこの行為に対し1月16日付で2寮委員会に文書を以て嚴重な注意を行いました。

大学は、この種の行為に対して、従来から行為の当事者に対して再三注意してきましたが、残念なことに未だに改善されません。このような迷惑行為自体もさることながら、その主張の内容の多くは必ずしも正しくありません。学寮問題の正しい現状をお伝えするために、学生協ニュース本号を発行します。

大学は新寮建設に向け努力を続けています

「新寮なき廃寮」という虚偽宣伝が横行していますが、大学は新寮建設に向けてこれまで最大限の努力をしてきました。また、昨年秋以降、建設計画は実現に向けて着実に進行しつつあります。

有朋寮の新規入寮募集停止と平成15年4月以降の使用停止を大学が決定したのは、老朽化に伴う寮生の生命に対する危険性が、許容範囲を超えたからです。この決定で大学の意志が明らかになり結果として、安全な新寮建設の実現に向けて確実に一歩前進することが出来ました。

有朋寮の定員充足率が、平成13年4月の時点で、既に50%に満たない状態であったことを考えると、新寮建設により、寮に入ることの出来る新入生の数は、今よりもむしろ増すこととなります。

また、急増する女子学生、大学院生、外国人留学生が利用可能な収容定員数も増加し、全学的には学生の学寮を利用できる機会が格段に増えるものと期待できます。

有朋寮委員会は「面談」を拒否しています

学寮専門委員会(学寮専)は有朋寮委員会に対して、昨年12月に有朋寮生の今後のケアについて「面談」を呼びかけましたが、同委員会は、現在までこれを黙殺しています。ビラや演説等による「大学は寮生と話し合わない」という有朋寮委員会や日就寮委員会の宣伝は虚偽であり、大学は有朋寮生の今後の生活支援を考え、寮生各人の希望等を聞く努力をしています。

学生が大学に意見を述べる場として、代表者会見という制度が整っています。もし、学生が大学に意見を述べたいのであれば、すでに公布している「副総長制下における会見の在り方について」に基づき会見を申し込むべきであると、大学では考えています。

大学は署名簿の受理を拒否していません

一部の寮生は「署名簿」受理を大学が拒否したと宣伝していますが、署名簿の手渡し要求に対し、これまでの手渡し行動で学寮専委員が深夜まで拘束されたことがあった経緯等を踏まえ、大学は、署名簿を郵送するように有朋寮に指示しました。しかし、未だに郵送されておりません。

大学では署名簿を受領しないとは一言も言っていません。なお、署名によって有朋寮の危険性が無くなるものではないので、安全性の評価には署名は関係しないと考えています。